

2007年6月22日

原子力委員会国際問題懇談会（第4回）

## 日印原子力協力と核不拡散

(財)日本国際問題研究所  
軍縮・不拡散促進センター  
戸崎 洋史

### \* 日印原子力協力の捉え方

- ・ 日印関係の観点から
  - 日印グローバルパートナーシップ
  - 原子力協力：多様な問題の一つ；日印関係の一層の推進に寄与する可能性
- ・ 世界的問題の視点から
  - 地球温暖化問題、エネルギー問題 原子力への期待、インドのニーズ（？）
    - ◇ インドのエネルギー需要に原子力がどれだけ大きなインパクト？
    - ◇ インドの狙いは、「核兵器国」としての認知と、自国産ウランの核兵器への利用？
  - 核不拡散問題
    - ◇ インド：NPTに反対し、核兵器を保有
    - ◇ 日本：核軍縮・不拡散は外交政策の最優先事項の一つ
- ・ 日印原子力協力から得られうる多様な利益＋被りうる不利益

### \* 日印原子力協力が核不拡散に与える影響

- ・ 日本の核不拡散政策との整合性
  - NPTを重視：「事実上の核兵器国」に対しても非核兵器国として加入するよう求める
  - 北朝鮮に対する核兵器廃棄の要求＋制裁措置
  - NSGの下での輸出管理：核不拡散義務・規範に反する国には（少なくとも核関連では）原子力関連資機材・技術を供与しない
  - 日印原子力協力は、NPTに背を向けるインドに対する利益供与 従来の日本の政策および基本的な核不拡散の原則に大きな変更を迫るもの
- ・ 「日本が」インドの核兵器保有を「黙認」することの意味
  - 核軍縮・不拡散を強く主張してきた被爆国でもある日本：他国とは異なるインパクト（cf.「米」印原子力協力）
  - インドの核兵器は「よい核兵器」？
  - 他の核兵器拡散問題への影響
    - ◇ 核兵器を取得しても、いつかは「黙認」「容認」されるとの認識
    - ◇ 拡散懸念国への原子力協力を促進させる可能性

- ◇ 北朝鮮およびイランに対しては制裁する中で、インドに利益（あるいは「褒賞」）を与えることに
- 日本の将来の核オプションに対する布石ではないかとの穿った見方がなされる可能性

★ 推進のための要件（とくに不拡散の観点から）

- ・ 国際的な核不拡散義務・規範の例外なき厳格な適用は現実的ではない
  - 個別的に対処していくべき問題も：特殊な事例における特殊な対応　ときに国際的な対応とは齟齬をきたす可能性（cf.北朝鮮問題での対応）
  - ただし、その目的が核不拡散（あるいは核兵器の放棄）につながるものであれば...
- ・ NSGの動向：コンセンサスに至るまでは、日本が積極的に容認する必要はない（？）+ NSGでコンセンサスが得られても日本が協力する「義務」は生じない
- ・ 日印原子力協力推進のための要件：日印原子力協力がインドによる核兵器廃棄という目標に向けた施策であることを明確化
  - CTBT署名（および批准）
  - 兵器用核分裂性物質生産モラトリアム：インドの核兵器増産を防止
- ・ 現段階でも協力可能な分野があれば、それを段階的に実施